



### 有松まちづくりの会役員会（6月28日）

令和3年度の事業として、コロナ禍で延長になっている「全国町並みゼミ東海大会」の実施を晩秋の有松期間中に開催する事、町並み研修会を勉強会のような形式で開催する事、会則改定に伴う組織図の確認・新役員の役割分担などについて担当より提案があり、協議されました。

### 愛知県絞工業組合総会（5月25日）

竹田理事長より「絞りまつり中止など、昨年度事業はコロナ禍で実施できなかったものも多くあったが、後継者育成は着実に進めることができた。研修を終えた、また研修中の100名程の技量は素晴らしい。反面、責任も感じている。商品を生み出し、彼らにある程度お金が支払われるようにしなければならない。幸い有松には引き続きスポットライトが当たっている。来年実施の国際芸術祭や今年11月の伝統工芸士全国大会を利用し、彼らが報われるようにしていきたい」との挨拶がありました。その後、令和2年度事業報告・令和3年度事業計画が満場一致で承認されました。



挨拶される竹田理事長

### NPO法人 コンソーシアム有松総会(6月7日)

緊急事態宣言の発令を受け、会員の皆様に書面による審議を頂いた上で役員会をもって総会となりました。令和2年度はコロナ禍のため活動制限が多々あったものの2年目の有松日本遺産事業も少しずつ形になってきた等活動報告がなされました。また、令和3年度も「有松や有松絞りのために」地域の皆様と共に取り組んでいくための種々の事業計画も承認されました。

### 知ってますか？ 駅前広場は絞り博物館

#### ② ペDESTリアンデッキ

名鉄有松駅と再開発ビルをつなぐペDESTリアンデッキは、駅前広場に立体的な歩行空間を創り出しています。

このデッキに整備された手すりは卯建をイメージさせる形状に作られ、そこに組み込まれたガラスには、数多くの有松絞り模様が見られます。有松絞りは種類の多さが特徴ですが、あたかも絞り博物館のようになっています。

線路に平行するデッキのガラス(下左)には、中央に嵐絞りで川の流れを表現し、上に三浦絞り、下に蜘蛛絞りが施されています。イオン側のデッキには70種類程の絞柄(下右)が1枚1枚名前入りで紹介されています。





## 6月5日6日の様子は？

緊急事態宣言下で2年連続絞りまつりは中止でしたが、両日も多くの人出が見られました。

絞会館売店でお伺いすると、「普段の土日よりはお客さんは多いです」とのこと。名鉄の"有松おさんぼきっぷ"や6日には有松をゴールとする"名鉄ウォーキング"が人出を後押ししたようです。岡家住宅の入館者も両日で260名。先月より倍増。和服客も少なくありませんでした。

東竹さん横で出店されていたのは、名古屋芸大の学生さん。テキスタイルの授業の一環で、板締め絞りのカラフルな製品が、こだわりのパッケージに包まれて売られていました。(写真右上) 地元のお店も、店頭で端切れやマスクなどお値打ち品を並べたり、店内にも普段以上に豊富に絞り製品が並べられていました。

他に、中町年行司前にも出店されていました。山車は密集を避けるため展示されませんでした。有松あないびとの会は岡家住宅で感染防止策を徹底して館内の案内をされたり、また"おさんぼきっぷ"のお客様を連れて町並み案内もされたりしていました。



## 有松あないびとの会 新人研修終わる (6月6日)

例年4月から5月にかけて、絞りまつりでのデビューを目指して新人研修が行われています。今年の絞りまつりは中止ですが、この時期のデビューに向け新人6名が先輩ガイドの町並み案内を学んでいました。6日は"卒業試験"。東海道沿いの案内箇所を、新人さんが緊張した面持ちで交代しながら案内をしていました。加藤明美会長から「自分も楽しんで案内しないと、お客様も楽しめないよ」などガイドの極意を伝授されていました。新人研修責任者の伊藤弥生さんは「開校式で町並み案内のビデオを視聴し、後3回(各2時間)実際の案内場面を見学しました。隔週で2ヶ月間びっしり学んでいただきました」とのこと。新人さんからは「思っていたように話せなかった」「資料の見せ方を工夫したい」との声がありましたが、一生懸命さが伝わってきました。



先輩の案内を見学する新人あないびと



## 川村家東蔵・西蔵の公開（6月6日）

竹田庄九郎家に20年間奉公した後文化5年(1808)別家独立した川村屋の東蔵・西蔵(嘉永3年(1850)の棟札あり、2階は両者繋がっている)が修復工事を終え、地域の皆さんに公開されました。

手掛けたのは"あいちヘリテージ協議会"。貴重な建物等の保存活用に取り組んでいる団体で、4月よりこの蔵2階に事務所を置いているとのことでした。



東蔵・西蔵の2階の様子

## 桜台高校の先生が岡家住宅に来館(6月12日・13日)

市立桜台高校ファッション文化科の先生が両日に渡って来館されました。「岡家より寄贈された反物を授業で活用して洋服や小物の制作に取り組んできたが、より有松を知りたい」と見学に来られました。お伺いした村松先生は、更に「伝統的なものを繋げていきたい」とご自身も反物を加工したドレスを身につけて来てくださいました。



高校生など若い世代に絞りが受け継がれていることを強く感じさせられた日となりました。

## 講座「有松を学ぶ」続（6月2日・16日）

6月は絞りに関する学び。有松絞りへの関心が強いようで、2日の講義終了後には講師の竹田嘉兵衛氏に多くの質問が出されていました。また、16日のしぼり体験では皆さん童心に戻り、講師の濱島正継氏の分かりやすい説明もあり素晴らしい作品ができあがりました。

### 「第4回 有松絞りの歴史」 講師 竹田嘉兵衛氏

竹田氏より「絞り屋から見た世界の中の有松絞り」のお話を伺いました。前半は絞りの歴史。有松で絞りが生まれて400年経つが、世界ではもっと古くから行われている。アンデス・インド・中国などは古い。日本では正倉院に7～9世紀のものが残る。

有松絞りの発生と関連して、辻が花染めについて時間を割いて説明があり「(室町中期から江戸初期の)約100年で消えてしまったが、熱田で作られていたという説がある(かつて熱田に辻が花町があった)。有松で絞りが生まれ短期間に成長できた背景に、辻が花の職人の存在が関係しているのではないかと。今後、古文書を読んでいきたい」と語っていました。

後半は戦後の業界の動き。アフリカへの輸出で復活した絞り産業は、高度成長の中で売れるようになった。そのような中、今後絞り産業を持ち直すにはどうしたらいいのかの議論が始まり、世界の知恵を借りようと・・1992年国際絞り会議が20か国800人の参加を得て、名古屋で開かれました。議論の中心は絞りとはなにか。「シェイプドレジスト」つまり立体的に防染されたものと定義され、「模様をつくるために絞って防染する」から「美しい造形をつくるために絞る」へと捉え方が変わったことが紹介されました。ランプシェードなど実例提示が理解の助けになりました。

### 「第5回 有松絞りに挑戦」 講師 有松工芸 濱島正継氏

実習では雪花絞りに挑戦。10種の見本から柄を選び、最大3色(赤青緑)で染めました。濱島氏(写真右)より作り方の説明を受け、生地を細長く帯状にし順次交互に三角形に折り畳みました。のち木型に挟み、角を染液に浸けて出来上がり。氏のさりげないサポートと飾らない語り方が印象的でした。「サンプルよりいい出来ですね」の言葉も。実習後、見本を写真撮影する人が少なくありませんでした。



実習に先立ち有松で絞りが盛んになった好条件を紹介。1. 知多木綿など布が入手しやすかった 2. 染料の藍を西尾より入荷できた(化学染料は輸入) 3. 有松は硬水に近く綿染色に適していた。

## カフェ&アートギャラリー KONMASA オープン (5月31日)

有松駅前通りの一画、旧山田時計店のビルが改装されて伝統と現代アートが交わる拠点に生まれ変わった。

有松出身のKONMASA①は写真修行で訪れたニューヨークで現代アートに出会い、帰国後"KONMASA"を開店する。1階はカフェ。広いカウンターと壁面には現代アート作品②が展示されている。2階はギャラリー、3階はKONMASA自身の作品が展示されている。和紙に細かい穴を空けて描く。光を通すと浮かび上がってくる③④。光作品のため、室内は暗くしてある。3階は刺激を遮断した落ち着いた空間になっている。1階が"話しに来る場"なら3階は"自分と対話する場"といえる。



① ③  
② ④



店頭でのKONMASAと展示作品

KONMASAは「ストレスの多い時代、MEISO-ROOMを訪ねては」と仰っていました。展示作品の中に有松絞りの図柄③や浮世絵を描いた物も数点ある。「僕ができることは、有松を知ってもらうこと。絞りや有松に関心を向けていただければ嬉しい」とも仰っていました。

### 町並み案内で受けた質問から ① 有松あないびとの会 伊藤 総俊

有松は2019年に日本遺産に認定されました。江戸時代から残る古い町並みや伝統工芸の絞り・町の繁栄の象徴である山車などが町の魅力です。

有松あないびとの会はこの魅力を多くの人々にお伝えしたく、この20年程ガイド活動が続けてきました。そこで受けた珠玉の質問とは？

「Q1 どうして古いお店の庇(ひさし)は出っ張っているのですか？」

有松の町並みは全国で唯一「染織町」として重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。特に絞り商だった建物の造り自体に絞り染めを扱っていたことがよく分かります。もともと藍染の布は直射日光が当たると色が変色してしまいます。日差しから商品を守るために庇が出っ張っているのです。

ちなみに、明治後半有松にも化学染料が伝わり、大正中期以降主流となりました。以後、出っ張った庇の必要性はなくなりました。



井桁屋

### 催事・行事の予定

- 7月2日(金)~4日(日) 10:00 有松ゆかたまつり 有松東海道界隈
- 〃 11:00/12:00/13:00/14:00 あないびとの会無料町並みツアー 受付:岡家住宅
- 7月03日(土) 10:00 早川嘉英の藍染ワークショップ 棚橋邸・蔵工房  
(8/14まで毎週土曜日開催:ホームページ参照)
- 7月11日(日) 15:00 有松町家ライブ 二胡の響き 寿限無茶屋
- 7月19日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 7月25日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 7月26日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン



発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。 **有松のまち**

**検索**





